

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-134967

(43)Date of publication of application : 08.05.1992

(51)Int. Cl.

H04N 1/32
H04M 1/274
H04M 11/00

(21)Application number : 02-256132

(71)Applicant : RICOH CO LTD

(22)Date of filing : 26.09.1990

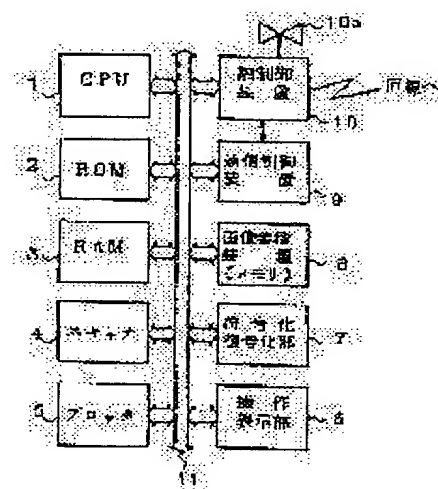
(72)Inventor : HAMADA NAOTO

(54) FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To register the facsimile (telephone) number of a call destination immediately without a special operation by providing a means for registering the called telephone number stored in a temporary storage means in an idle one action or abbreviated dialing area.

CONSTITUTION: A means 3 temporarily storing the called telephone number and a means retrieving the free one action or the abbreviation after a communication is finished and registering the called telephone number stored in the temporary storage means 3 in the free one action or the abbreviation when there is the free one action or the abbreviation are provided. In this case, the telephone number of the call destination inputted by an operator is temporarily stored, and after the communication is finished, the telephone number stored in the temporary storage means is registered in the idle one action or the abbreviated dialing area based on an operator's intention. Thus, it is possible to register the telephone number of the call destination with a simple operation.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-134967

⑮ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)5月8日

H 04 N 1/32
H 04 M 1/274
11/00

F 2109-5C
7190-5K
7117-5K

3 0 2

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑭ 発明の名称 ファクシミリ装置

⑯ 特 願 平2-256132

⑰ 出 願 平2(1990)9月26日

⑱ 発 明 者 浜 田 直 人 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 リ コ ー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 磯 村 雅 俊

明 浜田 直人

1. 発明の名称

ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

(1)ファクシミリ装置において、発呼した電話番号を一時記憶する手段と、送信終了後、空きワンタッチまたは短縮を検出し、空きワンタッチまたは短縮があった場合に、該空きワンタッチまたは短縮に、前記一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を登録する手段を設けたことを特徴とするファクシミリ装置。

(2)前記電話番号登録手段は、送信相手先のRTIをも登録することを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

(3)前記各手段に加えて、ユーザがファンクションモードで登録したワンタッチまたは短縮電話番号と、前記電話番号登録手段により登録されたワンタッチまたは短縮電話番号とを区別しておき、前記電話番号登録手段により登録されたワンタッ

チまたは短縮電話番号については、一定時間以上使用されなかった場合に消去する手段を設けたことを特徴とする請求項1または2記載のファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はファクシミリ装置に関し、特に特別な操作なしに、発呼先のファクシミリ(電話)番号を登録可能としたファクシミリ装置に関する。

[従来の技術]

従来、この種のファクシミリ装置としては、例えば、特開昭61-167274号 公報に開示された装置が知られている。

この装置は、送信先の電話番号を複数個記憶する手段と、電話機でダイヤルされた電話番号を検出する手段と、上記検出手段により検出された電話番号データを上述の記憶手段に書き込みあるいは読み出すよう制御する制御手段と、上述の記憶手段から読み出した電話番号データに基づき、自動的にダイヤル発信する自動ダイヤル発信手段を

備えたものである。

〔 発明が解決しようとする課題 〕

上記従来技術は、キーボード上の選択キーを操作することにより、一時記憶部に記憶されている発信先電話番号を上記の記憶手段に登録したり、上記の記憶手段から電話番号データを読み出して自動的にダイヤル発信したりすることが可能なものであるが、この装置においては、新たな電話番号(ファクシミリ番号)を、いわゆる「ワンタッチ」ボタン(以下、単に「ワンタッチ」という)、もしくは、短縮ダイヤル(以下、単に「短縮」という)に登録する際には、それぞれ、専用のファンクションモードに切換えて行う必要があった。

しかし、このように、操作の途中でモード切換えを行うことは、操作を複雑にし、また、オペレータにとっては面倒なものであった。

本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、従来の技術における上述の如き問題を解消し、特別な操作なしに、発呼先のファクシミリ(電話)番号を即座に登録可能とし

たファクシミリ装置を提供することにある。

〔 課題を解決するための手段 〕

本発明の上記目的は、ファクシミリ装置において、発呼した電話番号を一時記憶する手段と、交信終了後、空きワンタッチまたは短縮を検索し、空きワンタッチまたは短縮があった場合に、該空きワンタッチまたは短縮に、前記一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を登録する手段を設けたことを特徴とするファクシミリ装置によって達成される。

〔 作用 〕

本発明に係るファクシミリ装置においては、オペレータが入力した発呼先電話番号を一時記憶しておき、交信終了後に、オペレータの意志に基づいて、空きワンタッチまたは短縮に、上述の一時記憶手段に記憶されている電話番号を登録するようにしたので、簡単な操作で、発呼先電話番号の登録が可能になる。

〔 実施例 〕

以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に

説明する。

第2図は、本発明の一実施例を示すファクシミリ装置のブロック構成図である。図において、1は本装置全体の制御を行うCPU、2はCPU1が必要とするプログラム、データ等を記憶している読み出し専用記憶装置(ROM)、3は一時的なデータを記憶するための読み出し書き込み記憶装置(RAM)、4は画像読み込み用のスキャナ、5は画像出力用のプロッタ、6は操作表示部、7は符号化復号化部、8は画像蓄積装置(メモリ)、9は通信の制御を行う通信制御部、10は本装置を回線網に接続・制御するための網制御装置、10aは本装置の外付け電話機、また、11はシステムバスを示している。

第1図(a)は、上述の如く構成された本実施例のファクシミリ装置の主要な動作を示すフローチャートである。以下、第1図(a)および第2図に基づいて、本実施例のファクシミリ装置の動作を説明する。

ノーマル通信、同報通信を問わず、オペレータ

が操作表示部6のテンキーを用いて入力した発呼先電話番号は、RAM3内の所定の位置に記憶される。交信が終了した後に(ステップ21と22)、当該交信にエラーがなかったかどうかをチェックし(ステップ23)、エラーがあった場合には待機状態(ステップ34)に戻る。

交信にエラーがなかった場合は、発呼した電話番号を登録するモードが選択されているか否かをチェックし(ステップ24)、登録モードであれば、ステップ25以下の登録フローに進む。登録モードでなければ、待機状態(ステップ34)に戻る。

登録する場合は、まず、空いているワンタッチがあるか否かを検索する(ステップ25)。ワンタッチで空きがない場合には、次に、空いている短縮があるか否かを検索する(ステップ26と28)。ワンタッチにも短縮にも空きがない場合には、待機状態(ステップ34)に戻る。

ワンタッチまたは短縮で空きが見つかった場合(ステップ26または28)には、その空きのワンタッチまたは短縮の位置(番号)を、RAM3の所定の

位置に記憶する。そして、上記処理でRAM3に記憶したワンタッチまたは短縮の領域に、先にRAM3に記憶しておいた発呼先電話番号を登録する(ステップ27)。

その後、先の交信でRTI(被呼局識別情報)があり、かつ、該RTIをRAM3に登録する場合(ステップ30と31)にのみ、ワンタッチまたは短縮のラベルとして、該RTIをRAM3に登録する(ステップ32)。他の場合には、登録はしない。

最後に、今までの登録内容を記載したレポートを出力(ステップ33)して、待機状態(ステップ34)に戻る。

上記実施例によれば、オペレータが登録を希望する場合に、ファクシミリ装置側で、空きのワンタッチまたは短縮の位置を検索して、空きのワンタッチまたは短縮があった場合には、そこに、当該発呼先電話番号を登録するようにしたので、オペレータの操作の手間が著しく軽減される。

なお、空きのワンタッチまたは短縮がなかった場合には、後述する如く、時間経過を調べて、最

(ステップ44)ようにしても良い。

上記実施例によれば、ファクシミリ装置が自動的に登録した発呼先電話番号に関しては、その後の使用状況に応じて自動的に消去するので、ワンタッチまたは短縮がすぐに満杯になってしまうという状態を回避することが可能である。

上記各実施例においては、自動登録を行うか否か、交信相手先のRTIを登録するか否か、および、自動登録した内容を所定時間経過時に消去するか否か等の判断を、オペレータ(ユーザ)に求めるようにしたので、一部の機能のみを利用することも可能である。

なお、上記実施例は、本発明の一例を示したものであり、本発明はこれに限定されるべきものではないことは言うまでもない。

[発明の効果]

以上、詳細に説明した如く、本発明によれば、ファクシミリ装置において、発呼した電話番号を一時記憶する手段と、交信終了後、空きワンタッチまたは短縮を検索し、空きワンタッチまたは短

も古い登録データを消去して、そこに新規の発呼先電話番号を登録するようにしても良い。

第1図(b)は、本実施例のファクシミリ装置の待機状態における動作の概要を示すフローチャートである。

前述の如く、RAM3に記憶した発呼先電話番号を登録する場合には、これを、ユーザがファンクションモードで登録した(通常の)ワンタッチまたは短縮登録と区別するためのフラグ等をセットするようにして、同時に、登録した日付、時刻等をも登録しておく。そして、その後、上述の自動登録した発呼先電話番号が使用された場合には、この日付、時刻等を更新するとともに、上記フラグをリセットする。

待機状態においては、一定期間毎に、フラグのセットされているワンタッチまたは短縮を検索し(ステップ41)、その日付、時刻をチェックして、現在の時刻と比較し(ステップ42)、例えば、24時間以上経過しているもの(ステップ43)はクリアする。なお、消去する際には、ユーザに了解を得る

種があった場合に、該空きワンタッチまたは短縮に、前記一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を登録する手段を設けたことにより、特別な操作なしに、発呼先のファクシミリ(電話)番号を即座に登録可能としたファクシミリ装置を実現できるという顕著な効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

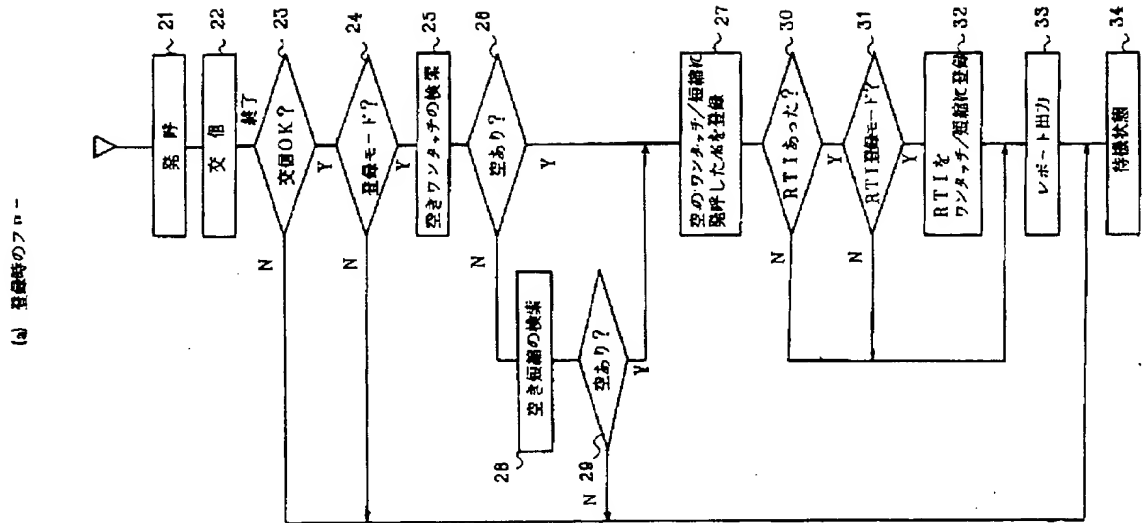
第1図は本発明の一実施例を示すファクシミリ装置の動作の詳細を示すフローチャート、第2図は実施例のファクシミリ装置のブロック構成図である。

1: CPU、2: ROM、3: RAM、4: スキャナ、5: プロッタ、6: 操作表示部、7: 符号化復号化部、8: 画像蓄積装置(メモリ)、9: 通信制御部、10: 網制御装置、10a: 外付け電話機、11: システムバス。

代理人 弁理士 森村 雅 俊

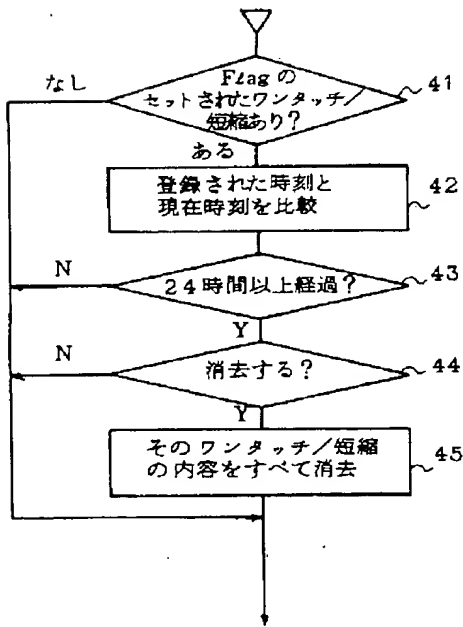


第 1 図 (その1)

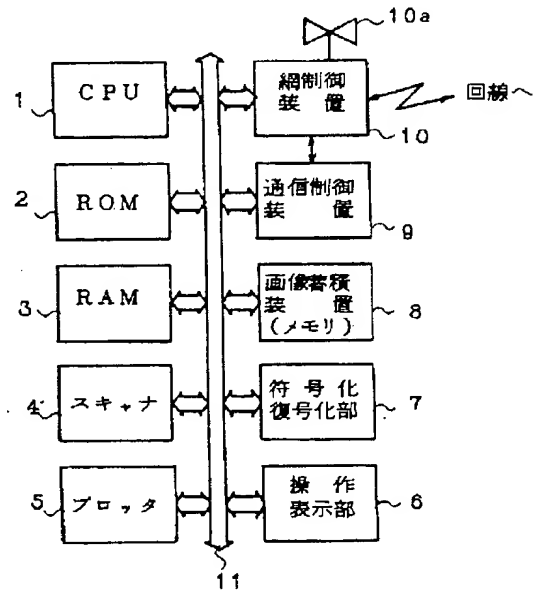


第 1 図 (その2)

(b) 待機状態時の検索のフロー



第 2 図



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成11年(1999)4月9日

【公開番号】特開平4-134967
 【公開日】平成4年(1992)5月8日
 【年通号数】公開特許公報4-1350
 【出願番号】特願平2-256132
 【国際特許分類第6版】

H04N 1/32
 H04M 1/274
 11/00 302

【F I】

H04N 1/32 F
 H04M 1/274
 11/00 302

手続修正書(自発)

平成 9 年 8 月 15 日

特許庁長官 荒井 秀光 殿

1. 事件の表示

平成 2 年 特許第 256132 号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
 住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
 名 称 (674) 株式会社 リ コ ー

3. 代理人

住 所 東京都新宿区西新宿1丁目23番1号
 新着千原ビル 電話(03)3341-5035
 氏 名 (7727) 弁護士 横村 隆俊

4. 補正により増加する発明の数 なし

5. 補正対象書類名 明細書

6. 補正対象項目名 特許請求の範囲および発明の詳細な説明

7. 補正の内容 別紙の通り

- (1) 明細書の「特許請求の範囲」の記載を別紙のように補正する。
 (2) 同「発明の詳細な説明」を次のように補正する。
 a) 第4頁第3行～第9行の「ファクシミリ装置に・・・を接続した」を下記のように補正する。

記

『発呼した電話番号を一時記憶する一時記憶手段と、発信終了後、空き(未登録)のワンタッチまたは短縮を検出し(第1図(a)のステップ25)、空きのワンタッチまたは短縮があった場合、前記一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を、前記空きのワンタッチまたは短縮に、ファンクションモードによって登録されたワンタッチまたは短縮と区別して登録(同ステップ27)する電話番号登録手段と、該電話番号登録手段により登録されたワンタッチまたは短縮が一定時間以上使用されなかった場合にその登録を消去(第1図(b)のステップ41～43)する消去手段を具備する』
 b) 同4頁第18行の『可能になる。』を下記のように補正する。

記

『可能になる。また、一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を、空きのワンタッチまたは短縮に、ファンクションモードによって登録されたワンタッチまたは短縮と区別して登録し、それが一定時間以上使用されなかった場合に消去することにより、ワンタッチまたは短縮がすぐに消滅になってしまう状態を回避することが可能になる。』

特許請求の範囲

(1) 発呼した電話番号を一時記憶する一時記憶手段と、交信終了後、空き（未登録）のワンタッチボタンまたは短縮ダイヤルを検索し、空き（未登録）のワンタッチボタンまたは短縮ダイヤルがあった場合、前記一時記憶手段に記憶されている発呼した電話番号を、前記空き（未登録）のワンタッチボタンまたは短縮ダイヤルに、ファクシミリモードによって登録されたワンタッチボタンまたは短縮ダイヤルと区別して登録する登録手段と、該電話番号登録手段により登録されたワンタッチボタンまたは短縮ダイヤルが一定時間以上使用されなかった場合に、その登録を消去する消去手段を具備することを特徴とするファクシミリ装置。